

3 資料

(1)「すぐに取り組むことができること」～ おもな取組状況について～

中間報告(概要版)「I こんなことに取り組んでみましょう」に、会員や所属で超過勤務縮減に取り組んでいただくことを願って、6つの取組の柱としてまとめ掲載しました。これをもとに各所属で話し合い、実践していただいたものと思います。取組の事例報告から一歩前進している様子をまとめました。

◇ワークルールを守る

- ・教職員の勤務時間は、PCシステムによる把握や個人記録表の提出により管理職や教育委員会の把握が始まってきている。
- ・職員会議は、会議時間を明確にして、協議の内容を精選することや、資料の事前配布をするなどして勤務時間内に会議が終われるような工夫が見られる。

◇安全衛生委員会の定例化と活性化

- ・安全衛生委員会が定期的開催されるようになり、意見を出しやすく情報が教職員全体で共有できるように運営に工夫が見られる。

◇時間管理の意識を変える

- ・退勤時にはチャイムを鳴らし、退校目標時刻前には声かけを行うことで教職員に教職員に時間を意識させるよう工夫が見られる。
- ・定時退勤日を設定して、時間内での仕事の段取りや優先順位を考えるきっかけがなされている。

◇ポイントを絞り、重点化する

- ・業務を点数化して、負担の“見える化”を行い業務負担の偏りを減らす工夫がなされている。
- ・年間計画を見通し、多忙時期の会議を減らす工夫が見られる。
- ・ノー会議デーを設定して、放課後の時間は個々の裁量にまかせられる工夫が見られる。

◇ノー部活デーの設定

- ・週1回のノー部活デーや、土日のどちらかは休みとする設定が見られる。
- ・複数顧問体制をとり、顧問が休みを取りやすい体制が見られる。

◇ノー部活デーの活用

- ・職員会議などの会議を「ノー部活デー」に設定して、会議は勤務時間終了時刻までに終わる工夫が見られる。

(2) 超過勤務の縮減に対する取組報告から

学校からの回答集計 (実施H29. 5~6)

項目	実施予定					すでに実施				
	小	中	高	特	計	小	中	高	特	計
(1) 考え方、意識など教職員が変わっていくために必要な事項										
①教職員への啓発	17	8	8	1	34	113	49	28	4	194
②超過勤務縮減のため、管理職のリーダーシップ発揮、議論の場の創出(職場の安全衛生委員会等で)	56	21	16	3	96	59	22	15	2	98
③定時退勤への工夫	38	16	13	2	69	77	31	8	2	118
④時間管理の意識と方法	46	21	14	2	83	60	12	3	0	75
(2) 効率化など職場が変わっていくために必要な事項										
①電子データの活用、共有	18	9	6	1	34	107	44	25	4	180
②マニュアル化、基準の明確化の対象	43	15	9	0	67	33	8	0	1	42
③チームワーク、仕事の分担などで解決できること	48	21	22	4	95	67	21	8	0	96
④学校の安全衛生文化の構築	45	14	18	4	81	16	7	3	1	27
⑤業務縮減を進めるための環境整備	68	24	13	2	107	31	7	1	0	39
⑥業務縮減の具体事項	60	26	6	2	94	29	6	0	1	36
(3) 大きな枠組みで変わっていくために必要な事項										
①体制整備	60	24	15	1	100	21	3	2	1	27
②行事等の削減や簡略化	62	24	16	3	105	40	13	3	0	56
③報告書の削減や簡略化	学校で取り組むことができない項目									
④教職員の増員、予算の増額	学校で取り組むことができない項目									
⑤勤務状況の把握	25	9	5	1	40	95	42	24	3	164
⑥職務内容の見直しや改善	74	33	21	3	131	33	8	2	1	44
⑦部活動の見直し	3	23	15	1	42	1	22	2	0	25
⑧休暇の取得促進	44	23	19	1	87	35	13	7	2	57
⑨地域ボランティアとの協働	39	19	3	0	61	41	8	0	1	50
⑩保護者の相談所の創設	学校で取り組むことができない項目									

校種別にとり組数が最も多い項目は太字表記

個人アンケートからの集計 (H29.5~12)

(単位:人)

校 種	計	性 別			年 代 別 ・ 男 女 別															
		男	女	未記入	20代			30代			40代			50代			60代			年代性別未記入
					男	女	未記入	男	女	未記入	男	女	未記入	男	女	未記入	男	女	未記入	
小学校	187	68	106	13	13	23	2	14	25	7	9	17	1	30	37	2	2	4	1	0
中学校	40	18	20	2	2	1	0	0	4	1	1	4	0	14	11	1	1	0	0	0
高等学校	51	29	21	1	6	0	0	5	1	0	4	11	0	11	7	0	3	2	0	1
特別支援学校	30	15	14	1	2	4	0	5	1	0	2	3	0	5	6	0	1	0	0	1
校種未記入	3	1	1	1	0	0	-	1	0	-	0	0	-	0	1	-	0	0	-	1
合計		131	162	18	23	28	2	25	31	8	16	35	1	60	62	3	7	6	1	3
	311				53			64			52			125			14			3

平成29年12月末到着分

個人の取組についての分類 (単位:件)

1	健康管理(心・体)	105
2	生きがい・趣味	12
3	家事・私生活の充実	42
4	時間管理	101
5	時間の工夫・見通し	35
6	優先順位	39
7	データ共有	6
8	業務見直し	58
9	意識改革	18
10	チームワーク	22

個人で複数の回答があるため回答者の総数とは異なります。また記述により、分類が重複するものがあります。